

【事務局より】
疫学以外の公表文献2報がリスク管理機関から提出されました。

「No.」～「備考」は、基本的にリスク管理機関から提出された資料のままの記載としています。ただし、誤記と考えられた記載については赤字で修正しています。
「分類の判断の理由」には論文の概要等を記載しています。
各文献の研究結果の分類（「評価に使用する可能性のある文献」/「評価に使用しない文献」）及び分類の判断理由に記載する内容について、御検討ください。

通し No.	No.	文献名	ジャーナル名等	公表年	著者名	著者の所属機関	書誌情報	研究分野	原著/総説	海外評価書での引用の有無	ドシエでの引用の有無	in vivo (動物種)/ in vitro	用量 (mg/kg体重又は mg/kg体重/)	NOAEL/ NOEL	LOAEL/ LOEL	Klimisch コード	評価の目的との適合性に関する情報	備考	研究結果の分類	分類の判断理由
1	8-1-1	The combination effects of quercetin with the herbicides atrazine, cyanazine and gesamprim in mutagenicity tests.	Z Ernährungswiss., 32, 131-138	1993	Guigas et al.	Institut für Hygiene und Toxikologie und Institut für Ernährungphysiologie der Bundesforschungsanstalt für Ernährung, Karlsruhe	https://doi.org/10.1007/bf01614756	遺伝毒性	原著	○ (JMPR 2007)	-	in vitro	40, 400 µg/L	-	-	-	準拠したOECD試験ガイドラインの記載はなく、HPRT試験ではOECD試験ガイドライン推奨の陽性対照物質を使用していない。被験物質（シアンジン）の純度、チャイニーズハムスター-卵巣細胞の供給源が記載されていない。試験濃度は2濃度のみ。試験濃度について分析が実施されておらず、溶媒中の被験物質の均質性や安定性について報告されていない。	チャイニーズハムスター-卵巣（CHO）細胞を用いて、姉妹染色分体交換（SCE）試験と6-チオグアニン耐性（HPRT）遺伝子変異試験を実施した。代謝活性化系を用いたHPRT試験で、ケルセチン、アトラジン、シアンジン、ゲサンプリムの高用量を単独で投与した場合、変異体数の有意な増加が観察された。		【論文の概要等】 ・遺伝毒性試験（定性的） ・チャイニーズハムスター-卵巣細胞（CHO）を用いたin vitro HPRT遺伝子突然変異試験（0, 0.04, 0.4 µg/mL）の結果、0.4 µg/mL、代謝活性化ありの条件下で突然変異率の増加が認められたが、代謝活性化なしの条件下では、有意な変化は認められなかった。SCE試験においても変化は認められなかった。 ・OECDテストガイドラインに準拠したin vitro遺伝子突然変異試験及び染色体異常試験（いずれもGLP試験）が提出されている[評価書案Ⅱ.11.]。
2	8-1-3	Effects of the chlorotriazine herbicide, cyanazine on GABAA receptors in cortical tissue from rat brain.	Toxicology, 142, 57-68.	1999	Shafer et al.	Neurotoxicology Division, MD-74B, National Health and Environmental Effects Research Laboratory, US Environmental Protection Agency, Research Triangle Park, NC 27711, USA	https://doi.org/10.1016/S0300-483X(99)00133-X	メカニズム	原著	○ (JMPR 2007)	-	in vitro	1-400 µM	-	-	-	本文献はメカニズム試験であり準拠したOECD試験ガイドラインはない。試験濃度について分析が実施されておらず、溶媒中の被験物質の均質性や安定性について報告されていない。いくつかの結果が記載されているが詳細が報告されていない。	本研究は、クロロトリアジン系除草剤、特にシアンジンがガンマ-アミノ酪酸（GABA）A受容体と相互作用し、その機能を変化させることを示唆している。生体内でのGABAA受容体活性の変化により、視床下部のゴナドトロピン放出ホルモン（GnRH）放出が阻害されることによりクロロトリアジン系除草剤にばく露された雌ラットにおいて黄体形成ホルモン（LH）の放出が阻害される可能性が示唆された。		【小野専門参考人より】 生殖発生毒性試験で認められた所見が、この論文で示唆されているGnRH、LH放出阻害に関連する可能性があれば、評価に使用する可能性がある。 【論文の概要等】 ・作用機序に関する文献（定性的） ・ラット大脳皮質の細胞膜画分を用いて、GABA（A）受容体への結合試験を実施した結果、GABA(A)受容体のベンゾジアゼピン部位に選択的に作用し、IC ₅₀ は約105 µMであった。